

輝☆新聞

釜石中学校
国境なき子どもたち
朝日新聞

祝！橋野高炉跡 世界遺産登録

未来に語り継ぐ橋野高炉 被災地に元気を

7月5日、現存する日本最古の洋式高炉跡である釜石市の橋野高炉跡が明治日本の産業革命遺産としてユネスコ世界文化遺産に登録された。岩手県発展の大きな兆しとなりそうだ。



ドイツで行われた世界遺産委員会の審議では橋野高炉の歴史的な価値が評価された。国内では19番目、県内では平泉の文化遺産に次いで、2番目の登録となる。登録を受け、橋野高炉跡への観光客は5倍に跳ね上がり、暑い中の平日にもかかわらず、多くの観光客が見られた。

橋野高炉は日本最古の洋式高炉跡で、その建設には盛岡藩士の大島高任が大きく関わっている。

ガンガン行こうぜ！！ 突撃★駅前インタビュー

釜石を想う声多く

8月5日、釜石駅前でも市外から訪れた駅の利用者を対象に、釜石のイメージについてのインタビューを行ったところ、復興の遅れを心配する声を多く聞くことができた。

震災から4年経った今でも復興関係の仕事で釜石を訪れる人もおり、釜石のイメージでは「震災」「復興が遅い」という回答が多かった。

一方、SL銀河を目的とする人も多かった。沿岸訪問者増加に、この夏SL銀河が一役買っていた。



釜石のイメージは？

- 【1位】復興のスピードが遅い
- 【その他】海から近い地域と、そうでない地域の差が大きい、静かなところ、豊かな海産物、ラグビー(ワールドカップ、新日鉄釜石)、鉄の街、SL銀河

釜石に来た目的は？

- 【1位】仕事
- 【その他】旅行、観光(橋野高炉跡を見に来た、家族旅行など)、東北一周(行な)、SL銀河

繋がる笑顔の花

8月5日、釜石市野田武則市長が釜石市の現状や未来についてインタビューに答えると共に、市内の中学生への想いを熱く語った。

釜石市では「三陸の大地に光輝き希望と笑顔があふれるまち釜石」をスローガンに掲げ取り組んでいる。私たち釜石市の中学生にできることとして「今大きく変貌できる中学生時代に、社会に目を向けてほしい。そして様々な課題に関わり、多くを体験してほしい。」



詳しい歴史はインフォオムーションセンターの映像や資料で楽しみながら学ぶことができる。世界遺産登録推進室

長の佐々木育男さんは、「橋野高炉に関わった先人たちの功績を未来まで語り継ぎ、訪れた人に理解を深めてもらいたい。」

この登録が、被災した岩手県の復興や元気づけになることを願っている」と語った。岩手県は一層に賑わっていきそうだ。

2019年へトライ!! 地域でスクラムW杯



ラグビーカフェの廣田さんと共に、W杯の設計図やグッズの前で

「希望と笑顔あふれるまち釜石」に住む1人として、私たちも地域の活動に参加するなど、身近なことから積極的に関わっていききたい。

から応援で来てくれるという。「希望と笑顔あふれるまち釜石」に住む1人として、私たちも地域の活動に参加するなど、身近なことから積極的に関わっていききたい。

2019年のラグビーワールドカップ(W杯)の開催地が岩手県釜石市に決定し、ラグビーカフェの廣田一樹さんは「岩手県全体での盛り上げが必要」と述べた。開催地決定のPRでは大漁旗を振り、地域でラグビーに対する熱い思いを示した。2018年のスタジアム完成を目指すと共に、安全面を考え水門や防潮

堤を建設する予定。問が見込まれるため外国語への対応や、渋滞を緩和するための交通網の整理、岩手県全域での観光客の受け入れが課題とされている。廣田さんは「開催には賛成反対どちらの意見もあるが、今まで東北、岩手・釜石を支援してくれた方々にここまで復興したという感謝を伝える機会にしたい」と語った。

三陸の味 いただきます いただきます

全国から21団体が参加する「三陸ぐるっと食堂×B1グランプリ」が釜石」が8月29日、30日に釜石市シープラザで開催される。

橋野高炉跡の世界遺産登録やラグビーW杯開催決定が、沿岸初となる釜石で開催される決めた手となった。地元地域づくり8団体、愛Bリーグ加盟7団体、その他6団体が参加。市内からは釜石ラーメン、県外からは富士宮焼きそばや千葉県のタンタンメンなどが出店する予定。虎舞やダンスなどのステージイベントもあり、幅広い世代で楽しめるのが見どころだ。

岩手県沿岸広域振興局の松崎雄一さんは「楽しんでほしい、三陸の魅力を伝えてほしい」と語った。参加団体の方々がたくさん交流して欲しい」と語った。



沿岸初の開催となるB1グランプリが、三陸資源の発信や、食による地域活性化を後押しする機会になりそうだ。